



学校だより

おっぴ

半田市立乙川東小学校

第13号

令和4年2月28日

発行責任者：福島 富美



校訓 たくましく 心ゆたかに 大きくのびよう



コミュニケーションが生む無限の力



2月20日、北京で行われていた冬季オリンピックが幕を閉じました。17日間にわたって様々なウィンタースポーツが繰り広げられました。その中で、あまりルールも分からないのに妙に引きつけられた競技がありました。それは『カーリング』です。

「ヤー、ヤー、ヤーッ!」「アップ、アップ!」と聞き慣れないかけ声。「ナイス!」「いいよ、いいよ。」というポジティブな声かけ。ストーンを放つ前にチーム4人で集まり、ストーンの方向を示し考えを出し合う姿。そして、『もぐもぐタイム』といわれる休憩を兼ねた短い作戦会議。試合の中で、言葉を掛け合い考えを出し合う場面がとても印象的な競技です。その言葉の掛け合いに引きつけられた理由が、何度も試合を観戦するうちに分かってきました。それは、どの言葉も肯定的な言葉であること。それは、作戦を話し合う中で、たとえ違う考えを伝え合う場合もです。「こういう方法もあるよ。」「うん、うん。いいね。」「それでいこう。」それは、コーチが加わっても同じ。互いの考えを聞き合い、否定をせず受け入れ、よりよいものを生み出そうとするコミュニケーション力。超人的な技の魅力とは違う人間味溢れる魅力を感じました。

人が一人で考えることは限りがありますが、そこに無限の可能性を加えるのがコミュニケーションです。子どもたちには、その良さをできる限り体験して大人になってほしいと思います。相手を認め肯定する。多様な意見の中でその一つ一つの良さを吟味して考えをまとめていく。この価値を感じてほしいです。そのために私たち大人は、子どもたちの考えを聴いたときに、その正誤を判断して答えを与えるのではなく、多様な考えがあることに気づかせることを大切にしていきたいと思います。

乙東っ子の 乙東っ子による 乙東っ子のための 活動 その4

2月のある日、学級会で子どもたちが「優しい言葉を意識して使ってみませんか」という提案をしたそうです。名付けて『思いやりキャンペーン』。提案した子は日頃の学級の様子からこの提案を考えたそうです。教師側の「子どもたちから良い提案が出てきた」という喜びの感情とは裏腹に、意外にもこの提案は通りませんでした。

しかし数日後、反対していた子からの一言で、再び学級会が開かれることになり自分の考えをなんとか伝えようとする姿がたくさんみられました。そして、『思いやりキャンペーン』は実行されることになったそうです。

「乙川東っ子の乙川東っ子による乙川東っ子のための活動」は、時にこうした自分とは違う意見とのぶつかり合いを引き起こします。その一つ一つが子どもたちの貴重な体験となっていきます。



2/24 4年生学習発表会

一年間で体験し、考え、成長したこと、そして将来の夢を発表しました。



2/24 4年生学習発表会



2/24 2年2組学習発表会

今までの成長を発表しました。

団結力を発揮しました。



2/25 全校大なわ大会



2/24 5年生デジタルシチズンシップ学習

安全に便利にデジタル機器を使うために、みんなで考えを出し合って話し合いをしました。



2/17 4年生デジタルシチズンシップ学習

よく
お願いします

今年度最後の学習発表会は、4年生と2年生の予定でしたが、2年1組の発表は学級閉鎖のため延期になってしまいました。子どもたちに延期を伝えると「えーっ！」と落胆の声が上がったものの、「3月に2年1組だけの学習発表会をするよ。発表すること覚えていてね。」と続けると、笑顔で「うん、大丈夫。」「家でまた練習しておくよ。」と返ってきました。予定されていた保護者の皆様にはご迷惑おかけして申し訳ございませんが、3月9日（水）に延期することにしました。どうかご理解いただき、ご参観いただきますようお願いいたします。

なお、来年度の学習発表会は、学校公開日とは別に、10月から2月の間に各学年で行う予定です。

